

## Go-Ahead

## 4

令和元年度（2019 年度）  
学校教育相談について<https://toyono-jinjikyo.com/>

—子ども理解と組織的な支援—（中堅教諭等資質向上研修）

第 3 回 10 年経験者研修は、臨床心理士・精神保健福祉士の井上序子先生を講師にお招きし、『学校教育相談について～子ども理解と組織的な支援～』というタイトルで講義、演習を行いました。

今日の子どもたちが抱えている課題は、一人では対応が難しく、解決できないような要因が複雑に絡まり合っているというお話から始まりました。だからこそチーム学校として子どもの小さなサインを見逃さず、支援し、小さな変化を積み上げていくこと、子どもを中心に据え、その背景にある環境や関係を結びつけアセスメントすることなど、日々課題に向き合う中で要となるお話をしてくださいました。ミドルリーダーとしてチーム体制を構築し機能させていくことが求められている中、子ども理解を柱に深く学ぶ研修となりました。

## ～ 振り返りシートより ～

教育相談が望ましい在り方の助言、援助を図るものであり、あらゆる教育活動の中で行われる幅広いものであることが分かり、学校で関わる子どもたちを教職員全員で関わっていく気持ちが大切であると思いました。

子どもの言動にはその背景で様々な課題が絡み合っていることを改めて感じました。小学校前の 4～6 歳の時期が大切だということや体幹の話聞いて、落ち着きがなかったり、集中力が持続しなかったりするのそういうことも関係しているということに気づかされました。

今日の講義を聴きながら、いろいろな子どもたちの顔が浮かんできました。保護者の子育て不安やしんどさも大いに影響があると感じます。だから、子どもの様子を密に伝えて安心してもらうことも大事だと話聞いて感じました。子ども理解の視点から子どもが抱える様々な問題を知ることができ、明日からの支援につなげていきたいと思います。また、グループワークでは、友だちとのトラブルで不登校気味になった場合は、まずいじめを疑うという先生の言葉が印象的でした。対応が遅れないよう、校内でもすぐに取り上げていくことを常に意識しておきたいと思います。

子どもたちが小学校入学までの間、どういう環境で育ってきたのかを理解すること、しっかりと保幼小連携を行い、様々なしんどさ、課題を抱えている場合には、それまでの経緯や家庭の問題もあわせて考えていかなければならないと強く感じました。子どもの問題行動は氷山の一角であり、その背景をいろいろな視点から考え、関係機関・教職員・家庭が連携し合うことの必要性や、学年・学校がチームになることが本当に必要だと感じました。抱え込んでいる若手の教職員がいた場合は、しっかりと声かけをし、共有していきたいと思いません。

「校内連携なくして機関連携はあり得ない」というお話を聞いた時に、いくつもの事案が思い浮かびました。何が起っていて、誰が困っているのかという情報共有はできていると思いますが、そこからの動きができていないように思いました。「チーム学校」として動くのも今だし、動かしていくのも中堅教員の役割ではないのかなと思いました。報告しやすい工夫を私たちの立場でもできることがあるので取り組みたいと思いました。「見方が変われば支援が変わる」ので見極めながら早期対応ができたらと思います。

「どんな子でも勉強が分かりたいと思っている」という言葉がとても印象に残りました。いきなり勉強でつながるのは難しいと思いますが、背景等も含めて理解して関係を築き、前向きにがんばれるよう勉強でもつながっていききたいと感じました。

プチ不適應に先生が気づき、小さいことと受け止めずに周りの先生に報告することが問題を起こす子どもへの手助けの一歩となることがわかりました。「あれ？」と思ったことを話し合えるような職場の雰囲気、学年集団の雰囲気をつくっておくことも大事だと思いました。

法定研修はこの 10 年経験者研修で完結しますが、今後もさまざまな研修を受講し、豊能地区のめざす教職員像でもある「子どもとともに学び続ける教職員」として、皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。